

高等学校での「生活におけるリスク」および損害保険の教育に関する調査結果概要

《全体について》

- ・「生活におけるリスク」に関する教育を行うことが必要と回答した割合は全体で 94.8%となっている一方、「生活におけるリスク」に関する教育を実施していると回答した割合は全体で 52.8%となっている。また、損害保険に関する教育を行うことが必要と回答した割合は全体で 83.8%となっている一方、損害保険に関する教育を実施していると回答した割合は全体で 23.4%となっている。いずれも、教育が必要と回答した割合に対して、教育の実施割合が低くなっている。
- ・「生活におけるリスク」および損害保険に関する授業の実施において、いずれも「教えるための副教材・ツールがない」、「教科書に記載が少ない」、「授業時間数が足りない」、「教員の知識が不足している」ことが主な課題として挙げられている。また、今後の「生活におけるリスク」および損害保険に関する教育の浸透に向けて重要と考えられる取組みでは、いずれも「副教材・ツールの充実」、「教科書の記載内容の充実」、「授業時間の確保」の回答割合が高く、課題解決に向けた取組みが重視されている。

《「生活におけるリスク」に関する教育について》

●高等学校での「生活におけるリスク」に関する教育の実態(公民科)

- ・現在、「生活におけるリスク」に関する教育を実施している割合は 32.0%と全体の 1/3 程度である。
- ・主な授業内容は「備えとして社会保険制度があること」(85.0%)が最も高く、次いで「日常生活において様々なリスクが存在すること」(73.7%)、「備えとして民間保険があること」(42.0%)となっている。
- ・年間の授業時間数は、各学年いずれも「1時間未満」が 3~4 割を占めている。
- ・公民科の授業において、生徒が「生活におけるリスク」に関する授業内容について関心を持っていたと回答した割合は 74.6%となっている。関心の高い授業内容は、「備えとして社会保障制度があること」(68.5%)、次いで「日常生活において様々なリスクが存在すること」(56.7%)、「リスクが現実となった場合の必要負担額」(35.7%)となっている。

●高等学校での「生活におけるリスク」に関する教育への意識・意見等(公民科)

- ・公民科を教えている教員の 91.7%は「生活におけるリスク」に関する教育が必要であると回答している。主な理由は、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」(83.2%)が最も高く、次いで「一般教養として必要だと思うため」(54.0%)となっている。
- ・公民科を教えている教員の 84.4%が「生活におけるリスク」に関する教育を実施するために 1~4 時間の授業時間が必要だと考えている。
- ・授業実施において「授業時間数が足りない」(45.5%)、「教科書に記載が少ない」(43.3%)、「教えるための副教材・ツールがない」(39.5%)を主な課題として認識している。
- ・公民科を教えている教員の 73.4%が「生活におけるリスク」に関する教育を実施するためには教科書に記載されている内容が不十分だと感じている。
- ・今後必要だと思う授業内容は、「備えとして社会保障制度があること」(77.6%)が最も高く、次いで「日常生活において様々なリスクが存在すること」(75.4%)、「リスクが現実となった場合の必要負担額」(69.2%)となっている。
- ・今後の「生活におけるリスク」に関する教育の浸透に向けて「授業時間の確保」(51.9%)、「教科書の記載内容の充実」(51.0%)、「副教材・ツールなどの充実」(47.4%)を重要な取組みとして考えている。

●高等学校での「生活におけるリスク」に関する教育の実態(家庭科)

- ・現在、「生活におけるリスク」に関する教育を実施している割合は 68.4%と全体の 7 割程度となっている。
- ・主な授業の内容は「備えとして社会保険制度があること」(91.8%)が最も高く、次いで「日常生活において様々なリスクが存在すること」(86.4%)、「備えとして民間保険(生命保険や損害保険など)があること」(65.8%)となっていた。
- ・年間の授業時間数は、各学年いずれも「1時間未満」が3~4割を占めている。
- ・家庭科の授業において、生徒が授業内容について関心を持っていたと回答した割合は67.4%となっている。関心の高い授業内容は、「日常生活において様々なリスクが存在すること」(63.3%)が最も高く、次いで「備えとして社会保障制度があること」(57.4%)、「リスクが現実となった場合の必要負担額」(42.2%)となっている。

●高等学校での「生活におけるリスク」に関する教育への意識・意見等(家庭科)

- ・家庭科を教えている教員の97.1%は「生活におけるリスク」に関する教育が必要だと回答している。主な理由は、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」(86.8%)が最も高く、次いで「個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため」(54.2%)となっている。
- ・家庭科を教えている教員の 86.9%が「生活におけるリスク」に関する教育を実施するために1~4時間の授業時間が必要だと考えている。
- ・授業実施において「教員の知識が不足している」(46.0%)、「授業時間数が足りない」(46.0%)、「教えるための副教材・ツールがない」(39.7%)を主な課題として認識している。
- ・家庭科を教えている教員の 71.1%が「生活におけるリスク」に関する教育を実施するためには教科書に記載されている内容は不十分だと感じている。
- ・今後必要だと思う授業内容は、「備えとして社会保障制度があること」(85.7%)が最も高く、次いで「日常生活において様々なリスクが存在すること」(81.7%)、「リスクが現実となった場合の必要負担額」(74.0%)となっている。
- ・今後の「生活におけるリスク」に関する教育の浸透に向けて「副教材・ツールなどの充実」(68.8%)、「授業時間の確保」(48.4%)、「教科書の記載内容の充実」(46.5%)を重要な取組みとして考えている。

●「生活におけるリスク」に関する教育において今後必要と考えられること

- ・「生活におけるリスク」に関する教育が必要だと感じている割合は全体で9割以上であり、「生活におけるリスク」に関する教育の浸透に向けて、今後重要と考えられる取組みでは、全体で「副教材・ツールなどの充実」(59.7%)、「授業時間の確保」(49.8%)、「教科書の記載内容の充実」(48.3%)が挙げられている。
- ・「副教材・ツールなどの充実」、「教科書の記載内容の充実」については、授業を実施する際の課題として「教えるための副教材・ツールがない」、「教科書に記載が少ない」が上位となっていることを踏まえると、「生活におけるリスク」に関する教材の充実が求められていると推測される。
- ・「授業時間の確保」については「現在の授業時間数」は「1時間未満」が3~4割程度となっている一方で、必要と考える授業時間数を「1~4時間」と回答している割合が全体で85.9%となっていることから、「一定の授業時間数の確保が求められていると推測される。
- ・そのほか、家庭科においては、今後重要と考えられる取組みとして「教員向け研修機会の充実」が37.9%となっており、「教員の知識不足」が授業実施時の課題として最も高い回答割合となっていることを踏まえると、「家庭科教員への情報提供の充実が求められていると推測される。

《損害保険に関する教育について》

●高等学校での損害保険に関する教育の実態(公民科)

- ・現在、損害保険に関する教育実施をしている割合は 11.0%である。
- ・主な授業内容は、「日常生活において様々なリスクが存在すること」(77.1%)が最も高く、次いで「リスクが現実となった場合の必要負担額」(49.6%)、「社会保障制度と民間保険の違い」(48.9%)となっている。
- ・年間の授業時間数は、各学年いずれも「1時間未満」が4割以上を占めている。
- ・公民科の授業において、生徒が授業内容について関心を持っていたと回答した割合は 75.6%となっている。関心の高い授業内容は、「日常生活において様々なリスクが存在すること」(65.7%)が最も高く、次いで「リスクが現実となった場合の必要負担額」(48.5%)、「損害保険の種類やその内容」(40.4%)となっている。

●高等学校での損害保険に関する教育への意識・意見等(公民科)

- ・公民科を教えている教員の 79.3%が損害保険に関する教育が必要であると回答している。主な理由は、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」(75.7%)が最も高く、次いで「社会保障制度を補完する手段として必要だと思うため」(47.4%)となっている。
- ・公民科を教えている教員の 79.1%が損害保険に関する教育を実施するために1~4時間の授業時間が必要だと考えている。
- ・授業実施において、「教科書に記載が少ない」(46.6%)、「授業時間数が足りない」(45.8%)、「教えるための副教材・ツールがない」(35.9%)を主な課題として認識している。
- ・公民科を教えている教員の 74.0%が損害保険に関する教育を実施するためには教科書に記載されている内容が不十分だと感じている。
- ・今後必要だと思う授業内容は「日常生活において様々なリスクが存在すること」(70.6%)が最も高く、次いで「リスクが現実となった場合の必要負担額」(64.5%)、「社会保障制度と民間保険の違い」(58.9%)となった。
- ・今後の損害保険に関する教育の浸透に向けて「授業時間の確保」(52.1%)、「教科書の記載内容の充実」(49.7%)、「副教材・ツールなどの充実」(46.7%)を重要な取組みとして考えている。

●高等学校での損害保険に関する教育の実態(家庭科)

- ・現在、損害保険に関する教育を実施している割合は 32.7%である。
- ・主な授業内容は、「日常生活において様々なリスクが存在すること」(82.9%)が最も高く、次いで「保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること」(59.8%)、「損害保険の種類やその内容」(56.9%)となっている。
- ・年間の授業時間数は、各学年いずれも「1時間未満」が4割以上を占めている。
- ・家庭科の授業において、生徒が授業内容について関心を持っていたと回答した割合は 68.4%となっている。関心の高い授業内容は、「日常生活において様々なリスクが存在すること」(62.7%)、「リスクが現実となった場合の必要負担額」(51.2%)、「保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること」(40.8%)となっている。

●高等学校での損害保険に関する教育への意識・意見等(家庭科)

- ・家庭科を教えている教員の 87.1%が損害保険に関する教育が必要であると回答している。主な理由は、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」(76.1%)が最も高く、次いで「個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため」(49.1%)となっている。
- ・家庭科を教えている教員の 72.6%が損害保険に関する教育を実施するために1~4時間の授業時間が必要だと考えている。
- ・授業実施において、「教員の知識が不足している」(42.1%)、「授業時間数が足りない」(41.0%)、「教えるための副教材・ツールがない」(40.7%)を主な課題として認識している。
- ・家庭科を教えている教員の 78.8%が損害保険に関する教育を実施するためには教科書に記載されている内容が不十分だと感じている。
- ・今後必要だと思う授業内容は、「日常生活において様々なリスクが存在すること」(72.3%)が最も高く、次いで「リスクが現実となった場合の必要負担額」(64.4%)、「損害保険の種類やその内容」(63.2%)となっている。
- ・今後の損害保険に関する教育の浸透に向けて「副教材・ツールなどの充実」(65.0%)、「授業時間の確保」(47.6%)、「教科書の記載内容の充実」(43.7%)が重要な取組みとして考えている。

●損害保険に関する教育において今後必要だと考えられること

- ・損害保険に関する教育が必要だと感じている割合は全体で 8 割以上であり、損害保険に関する教育の浸透に向けて、今後重要と考えられる取組みでは、全体で「副教材・ツールなどの充実」(57.2%)、「授業時間の確保」(49.6%)、「教科書の記載内容の充実」(46.2%)が挙げられている。
- ・「副教材・ツールなどの充実」、「教科書の記載内容の充実」については、授業を実施する際の課題として「教えるための副教材・ツールがない」、「教科書に記載が少ない」が上位となっていることを踏まえると、損害保険に関する教材の充実が求められていると推測される。
- ・「授業時間の確保」については「現在の授業時間数」は「1 時間未満」が 4 割程度となっている一方で、必要と考える授業時間数を「1~4 時間」と回答している割合が全体で 75.1%となっていることから、一定の授業時間数の確保が求められていると推測される。
- ・そのほか、家庭科においては、今後重要と考えられる取組みとして「教員向け研修機会の充実」が 35.9%となっており、「教員の知識不足」が授業実施時の課題として最も高い回答割合となっていることを踏まえると、家庭科教員への情報提供の充実が求められていると推測される。